

山見住 八国反 野園 秦靈

# オオムラサキ繁殖地に道路

## ルート変更要請

秦野市沢沢にある八国見山(319㍍)南面区域の大規模園建設計画を巡り、建設反対派住民グループ「沢

沢丘陵を考える会(日置乃武子代表)は、園に出入りするアクセス道路の整備で国蝶オオムラサキの繁殖地

が壊滅する恐れがあるとして、ルート変更などを求める要請書を5月28日付で事業者の公益財団法人「相模メモ

リアルパーク」に郵送した。

八国見山を含めた沢沢丘陵は、オオムラサキの県内最大級の繁殖地。オオムラサキはエノキの葉を餌とし、エノキに産卵する。NP〇法人「日本チョウ類保全協会」が昨年12月、八国見山周辺でオオムラサキの幼虫の越冬状況を調査したところ、20匹以上越冬するエノキが5本あり、うち3本はアクセス道路の整備の悪影響を受ける可能性が大きいことが分かった。

この3本は事業者が別の場所に移植することになっているが、ルート上の東尾根にある1本は樹高約10㍍、胸高直径約60㍍あるなど、いずれも高木で移植は非常に難しいとされている。

同会は、オオムラサキの生息環境の保全のため、アクセス道路のルートを変更してエノキを現存地で保護するよう求めている。また、古谷義幸市長に對しても、事業者にルート変更を指導するよう求める要請書を同日

付で送付した。

【高橋和夫】

毎日  
2014年  
6月3日